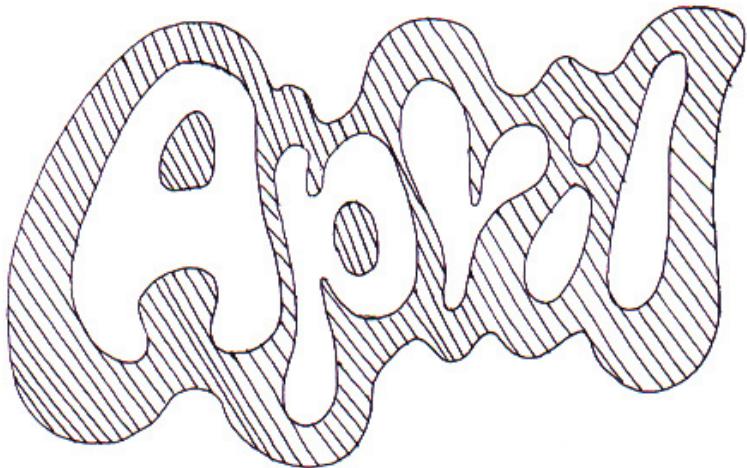


とよ・たち美肌通信 4月号

Vol. 117



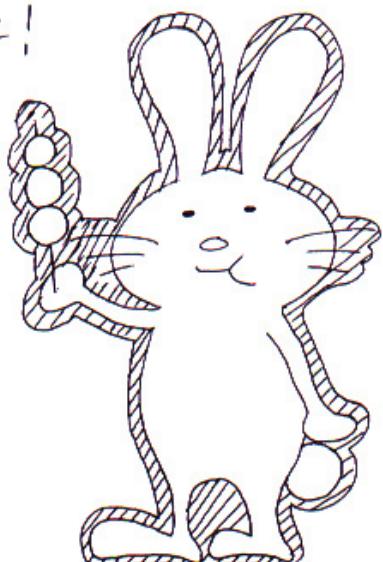
荒山 桃



とよたち 美肌通信 4月号の表紙は
春らしく 桜の木の下で カわいらしい
女の子が、楽しそうに お花見をしている
絵です。♥

桜がとってもきれいに咲いていますね♪
音楽を聴いたり、おいしい物を食べてたり、
する事が好きで、水泳やバドミントンで
兄弟対決をしてたり、スポーツも得意な
女の子が描いてくださいました！
ありがとうございます。⑥

院長はじめスタッフ一同
心より感謝いたします。



世の中の全ての仕事が必ず誰かの役に立っている。
なぜならそれは現存する全ての仕事が問題解決を行なうためです。世の中の仕事で問題解決を行なっていない仕事はなく、あとはそれを自分自身で気づくことが出来るかどうかです。それに気が付く時とはどんな時かといふと、他人に感謝された時です。他人に感謝されると、私達には「自分は必要とされている」という感情が芽生えます。これを「自己有用感」といふそうです。

これは全ての仕事において突然必ずやります。但し表にあらわれ易い仕事もあれば、見えづらい仕事があるのもまた事実です。

しかしもう一度言いますが、全ての仕事で問題解決を行なない仕事はありません。そこでこの問題が大きければ大きい程、仕事で得られる成果や自己有用感も大きくなります。

逆に言うと問題解決が不要にならない仕事というものは、仕事として成立しなくなるのがやがて消えていきます。自分の仕事が他人の為に役に立っている、

誰かの何らかの問題解決にたっていふと自分が考
えられる様になると、必ず自分を認めてくれる人が
少數でも周囲に出てくるもんです。

人間にはどこかで社会と接点を持っていたい、
働きたいといふ欲求があります。今、「仕事か
つらい」、「もう働きたくない」と思っている人もいる
でしょう。しかし働きなくて済む様になつたと云
ふはたてそれで幸せなのでしょうか。もちろん、
しばらくは解放感を感じることでしょう。しかしそれが
ある時期から大きな無力感と云ふ人にあとずれ
することになるはずです。

仕事をしていないと自分は何の役にも立たない
存在だと思ふ。こまうのが「人間だ」と思ふ。

どんな仕事を他人や社会の役に立てます。
その人はどんな状況下でも働くことによつて、
社会の役に立ちたりという欲求を持った人生を
おくる生き物なのだと思ふ。院長 挑